

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600127	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年1月31日
法人名	株式会社 シリセス		
事業所名	グループホーム星川園		
所在地	(〒240-0064) 神奈川県横浜市保土ケ谷区峰岡町1-13-1 サンワールドビル3F		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成29年4月21日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者の心身の状況、希望、家族の意向等を踏まえ個別支援など柔軟に対応している。 - 生花やレクによる装飾や散歩などで季節感を感じる事を重視している。 - レクや外出、買物など入居者が社会と孤独した存在とならない様、積極的に外部との交流を進め、ストレスを溜めず楽しみある生活を心掛けている。 - 地域交流、異世代交流に積極的に取り組んで、高齢になっても尊厳ある生活が出来る様、努めている。 - 家族へ月1回、職員が手紙を書き、ホームでの様子を伝えている。 - 調理職員による旬の食材による手作りの食事を提供し、食を通じて季節感やこれまでの人生経験などを感じ取ってもらうきっかけとなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年3月28日	評価機関 評価決定日	平成29年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇充実した医療体制 24時間連携体制があり、内科医が月2回往診、訪問看護師が毎週健康確認のために訪問している。歯科医が月3回往診し、口腔衛生士が指導している。 ◇地域との活発な交流 町内会に加入し、地域行事のお祭りや餅つき、清掃、敬老会、地域の防災訓練に、利用者が職員と一緒に参加している。小～高校生（5～8名参加）による毎月のボランティア、地域ボランティアのギター弾き語り、車いすダンス、ハーモニカ演奏などを受け入れている。 ◇多彩な外出支援 橘神社に初詣に出かけ、みなとみらいにバイキング、西谷浄水場でお花見、三ツ沢公園、東戸塚の牧場アイス、峰公園のお花見、桜が丘～新桜が丘～保土ケ谷公園のドライブ、誕生日には寿司外食など、遠出を含めて多彩な外出を支援し、活気のある生活を送るように支援している。 【事業所の工夫点】 ◇利用者の意向調査 利用者の食べたいものや快適な条件について「快適情報調査票」により意向を調査し、手作りの食事や日々のケアに反映している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム星川園
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示、共有し実践に繋げている	・ 理念のキーワードは「気遣う心、和める心、集い、安全、健康、日常生活」であり、フロアに掲示し、スタッフ会議などで確認し、日々のケアで実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事や掃除当番等に参加する事により、地域社会の一員として認知される様に努めている	・ 地域行事のお祭り、清掃などに利用者が職員と一緒に参加し、地域と交流している。 ・ ハーモニカ演奏、小学生や高校生のボランティアが毎月訪問している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物、行事参加などにより地域交流に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見に謙虚に耳を傾け、幅広い意見を職員間で共有し、施設運営に生かす努力をしている。	・ 町内会長、民生委員、家族、地域包括職員、保土ヶ谷区職員をメンバーとし、3か月ごとに開催している。 ・ 状況報告後、レクリエーションや食事内容などについて意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と連絡を密に取り、連携を取る事で運営上の向上を目指している。月1回相談員の方々を受け入れている	・ 介護更新手続きなどを通じて密に連携が取れている。 ・ 保土ヶ谷区の介護相談員が、毎月事業所を来訪している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体束縛をしないケアの実践の為、スタッフ全員が常に意識し、学び、正しく理解して取り組んでいる	・身体拘束排除マニュアルがある。 拘束か否かを職員は年数回ペーパーテストをして意識を高めている。 ・フロア内は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止法について正しく学び、防止の徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護に関する制度について正しく学び、その活用を支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等からの意見・要望は広く受け入れ、運営に反映させる努力を行っている。	・家族来訪時に意見や要望を聞き、共有すべき事項は申し送りノート、ホワイトボードなどに記載している。 ・スタッフ会議で内容を再確認し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は広く耳を傾け、反映させる努力をしている。	・スタッフ会議、管理者や法人代表による個人面談を通じて職員の意見を聞いている。 ・利用者へのケア方法などについて意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況・能力に応じて柔軟な働き方が出来る様、努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員のスキルアップを図る努めている。年1回の交換研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年1回の交換研修等を通し、他事業所との課題等を共有し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状況を注意深く観察し、要望等傾聴していく中で、信頼関係を築いていく努力をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と信頼関係を築く為、傾聴に努め、相談しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の要望を傾聴し、他サービスも含め適切な支援につなげられる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も時には人生の先輩に教えられる事も多くあり、上下関係のみならずヨコの関係を築く努力をしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心として、家族や職員が車の車輪となって支え合いお互いに信頼関係が築ける様、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた美容院やお店など出来る限り入居者の要望も聞き入れ、継続的にこれまでの関係が途切れない最大限の努力を行っている	・年数回面会に来訪する友人には、居室でゆっくり過ごしてもらっている。 ・利用者が、年賀状や葉書を出したり、電話をするときに支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、散歩等あらゆる生活の場面で利用者同士の交流を意識し、支え合える関係図作りを支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いや意向を傾聴し、言動や非言動的なものからその思いを汲む努力を常に怠らず支援に繋げている	・日常の会話を通して意向を把握している。表出困難な利用者の場合は、表情、仕草などから察し、また、紙に書いて思いを確認することがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族等から生活歴や生活環境等の情報収集を行い、把握し、サービスに反映させる様努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のパターンや心身状態等を把握し、努め小さな変化も見逃さないよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	広く意見を傾聴し、把握して現状に即した計画作成を行うよう努力している。	・医師、家族の意見、モニタリング結果を確認し、全職員が出席して月1回ケアカンファレンスを開催して、介護計画を作成している。 ・作成したケアプランは、家族の承認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から情報を共有する事で多くに気づきがあり、それを実践や介護計画の見直しに生かす努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況やニーズに応じて個別に対応し、最後まで惜しみなく過ごせる環境を整えられる様に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用する様に努めている。毎年、中学生の職業体験や自立支援学校の総合授業の受入れをし、交流をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の要望を尊重し、かかりつけ医や提携医療機関との連携を密にとり、適切な医療を受け入れられる様支援している	・内科医が月2回往診、訪問看護師が毎週健康確認のために訪問している。歯科医が月3回往診し、口腔衛生士が指導している。 ・整形外科に通う利用者がいるが、家族が対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と情報を共有し、医療面でのアドバイスを受け連携を密にとり、適切な受診の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と密に連携を取り合い、早期退院に向け最大限支援を行っている。毎日のお見舞いを欠かさない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては本人や家族の意向を汲み十分納得出来る様話し合い、共有し支援している。延命措置要否の同意書を交わしている	・看取りに関する法人の指針があり、入居時に家族、本人に説明している。 ・終末期に際しては家族の意向を確認し、医師、看護師と密に連携して適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A E Dを設置し、全職員が対応出来る様、定期的に研修を行い実践力を身につける努力をしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災火災各訓練を行う事により、地域との協力体制を築いている。地域の訓練にも参加をしている。	・6月（地震想定）、12月（夜間想定）に消防隊員が指導し、避難訓練と消火訓練を行った。 ・緊急時に備えて3日分の食料備蓄を持ち、リスト表で管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に則り、尊厳を尊重した対応を全職員が心掛けている	・職員は利用者を人生の大先輩として尊重し、丁寧な言葉使いで対応している。 ・個人情報は鍵のかかるロッカーで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を表出しやすい様、信頼関係を築き、自己決定を根気強く促す支援をする様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し過ごせる様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の適切な声掛け等により本人の要望に柔軟に応えられるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や下ごしらえ等や下膳等も含め、生活の中に感謝と楽しみが見出せ共に行える様、努力している	・旬の食材を使って調理担当者が利用者の好みを反映して作っている。 ・利用者はテーブルを拭いたり、配膳を手伝い、カレーの日には野菜を切ったりしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録する事で職員同士が情報共有し、健康状態等も含め支援に繋げ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携を密にとり、個々の状況に応じた口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録や介助により個別のパターンを把握し、個別に適切な支援を行う事で排泄の自立を目指している	・排泄チェック表でパターンを把握して声掛けし、トイレでの排泄を支援している。 ・病院を退院後、定期誘導で排泄リズムができ、布パンになった方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分、運動により薬に頼らない様支援に努めている。玄米を取り入れている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の清潔保持と皮膚等の観察により適切な支援に努めている。本人の希望を尊重し、リラックス出来る場の提供に努めている	・入浴は週2回午前中を基本としている。 ・入浴剤や季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。 ・入浴を拒む方は時間を変え、スタッフを変えて対応してる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息の重要性を理解し支援している。昼寝は短時間とし、寝具は清潔に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、主治医指導の下、確実に服薬出来る様支援している。変化が見られた際は直ちに報告し、細心の注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況や好みに合わせ、得意な事や役割を担っていただく事で張りのある生活が送れる様支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を最大限重視し、反映出来るよう努めている。外出支援を行っている	・ 天気の良い日には週3、4回個別対応で近くの公園に散歩に出かけている。 ・ 橘神社に初詣に出かけ、みなとみらいにバイキング、西谷浄水場に花見に出かけている。	・ 利用者の健康維持、気分転換のために、今後も散歩や外気浴への支援が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向、希望により支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一切の制限はなく、自由に電話や手紙のやり取りが出来る様支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間づくりの為、清潔を保ち季節感のある装飾や生花を飾るなど工夫している	・リビングは明るく、職員の体感で温湿度を調節している。 ・壁には行事の写真、利用者の塗り絵の作品や生花を飾り、季節を感じられようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においてソファ席など自由に過ごせる様、居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を配置し、本人が居心地良く過ごせる空間作りを支援している	・居室には、使い慣れたベッドやタンスを持ち込み、テレビや家族の写真を飾って居心地よい部屋となっている。 ・居室の掃除や衣類の整理には、職員が手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は整理整頓に努め、清潔で安全な空間環境である様工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム星川園

作成日 平成29年4月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	散歩や外気欲の支援向上。介護度が上がり、毎日の外出が難しくなってきた。	出来る限りの外出支援と共に地域交流を図る。	個別外出等も増やし、下肢強化、気分転換に努める。	3か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。